

## 1. 経営戦略改定の目的

- 経営戦略は、将来にわたって安定的に下水道事業を継続していくために、中長期的な経営の見直しを示した基本計画です。本町では、平成29年3月に平成29年度から平成38年度までの10年間を計画期間とする「檜葉町特定環境保全公共下水道事業経営戦略」を策定しました。
- 前回の経営戦略策定から9年が経過したことから、経営戦略の見直しに係る国の要請に基づき、最新の経営状況の反映や抜本的な改革等の取り組みを通じて経営基盤の強化と財政マネジメントの向上を図るため、経営戦略を改定するものです。

## 2. 下水道事業の概要、経営指標による類似団体との経営比較分析結果

### (1) 下水道事業の概要

令和6年3月31日現在

行政区域内人口	処理区域内人口 (処理人口普及率)	水洗化人口 (水洗化率)	処理区域内人口密度	主要施設	供用開始年度 (経過年数)	管渠延長
6,475人	6,023人 (93.02%)	4,803人 (79.74%)	15.6人/ha	北地区浄化センター	平成14年度 (21年)	77km
				南地区浄化センター	平成6年度 (29年)	
				マンホールポンプ場 (24箇所)	平成5年度～ 平成22年度 (13～30年)	

### (2) 主な経営指標による類似団体との経営比較分析結果

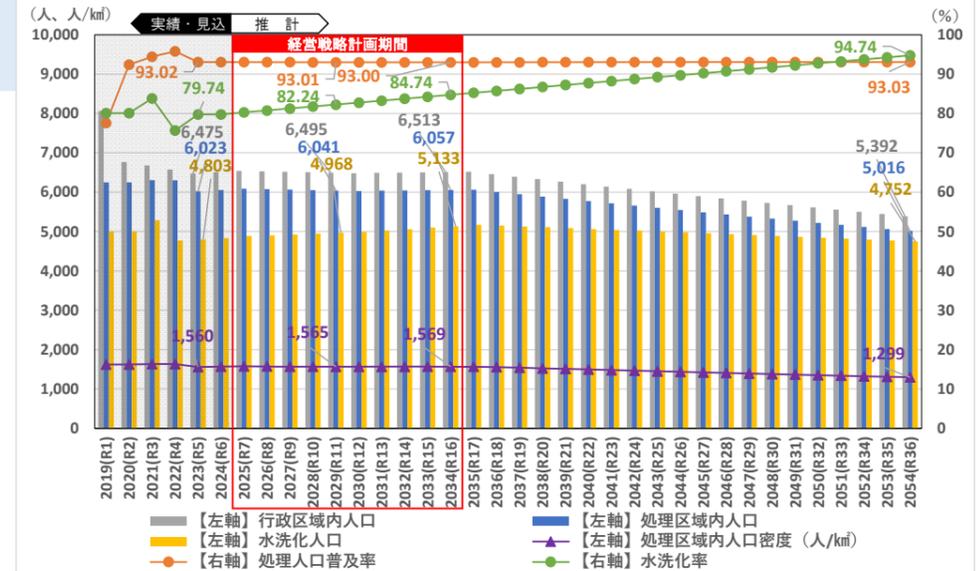
経営指標	望ましい動き	令和5年度		経営指標の説明
		檜葉町	類似団体 平均値	
汚水処理原価	↓	301.23円 <b>高</b>	233.50円	有収水量1m <sup>3</sup> あたりについて、どれだけの費用がかかっているかを表します。
経費回収率	↑	61.22% <b>低</b>	70.60%	使用料で回収すべき経費をどの程度使用料で賄えているかを表します。
水洗化率	↑	79.74% <b>低</b>	84.73%	処理区域内人口のうち、実際に水洗便所を設置して汚水処理している人口の割合を表します。

### 本町下水道事業の課題

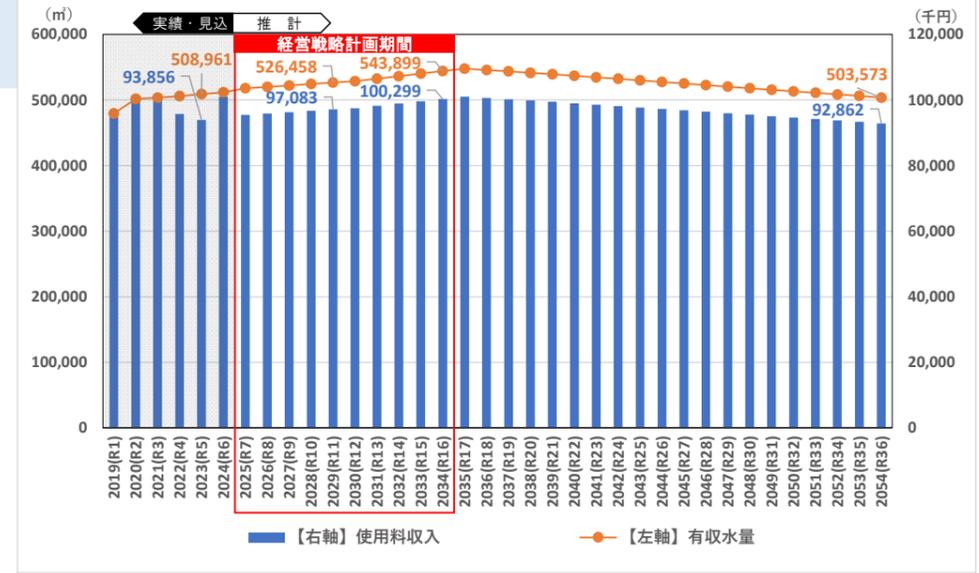
本町の下水道事業は事業規模に比して2つの処理場を有しているため、汚水処理原価が高く類似団体平均値を上回っています。そのため、本来使用者が負担すべき汚水処理に要する費用を使用料収入で賄えておらず、その不足分を一般会計からの基準外繰入金に依存しています。また、水洗化率は類似団体平均値を下回っており、水洗化率の向上を含めた**使用料収入の増加に向けた取り組みが必要です。**

## 3. 将来の事業環境

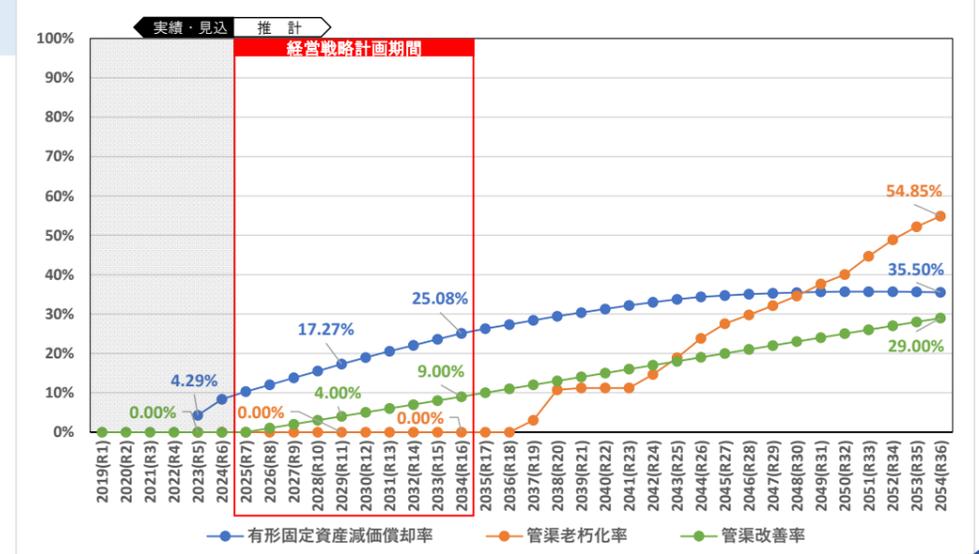
### (1) 水洗化人口・水洗化の見直し



### (2) 有収水量・使用料収入の見直し



### (3) 施設の老朽化の見直し

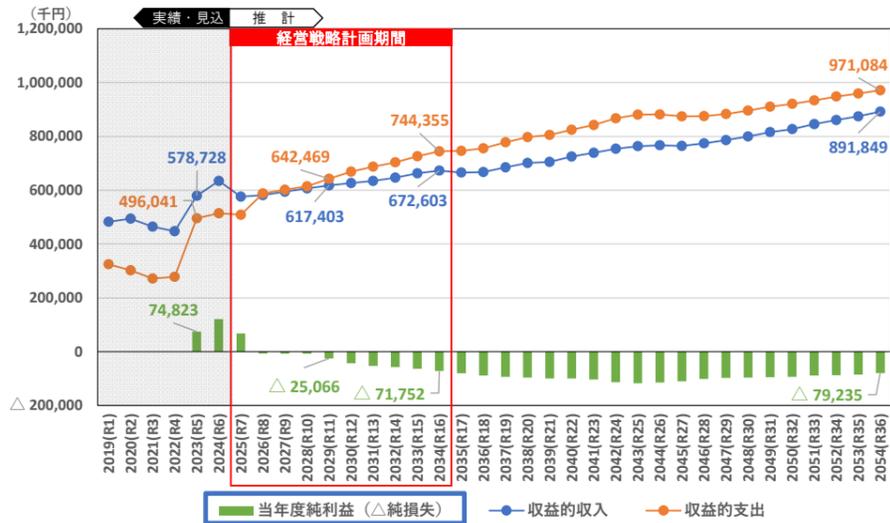


## 4.投資・財政計画（現状ケース）

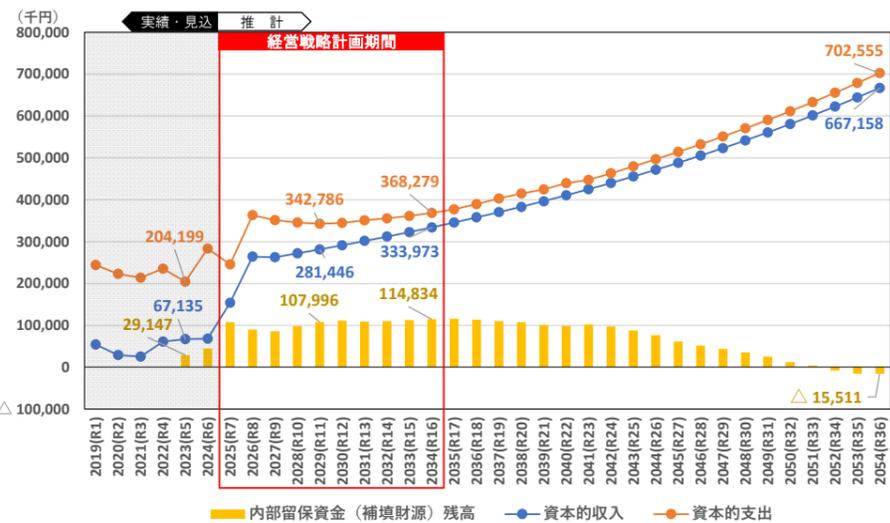
● 現行の投資計画と使用料水準に物価・人件費の変動を考慮した収支シミュレーション

### (1)収益的収支

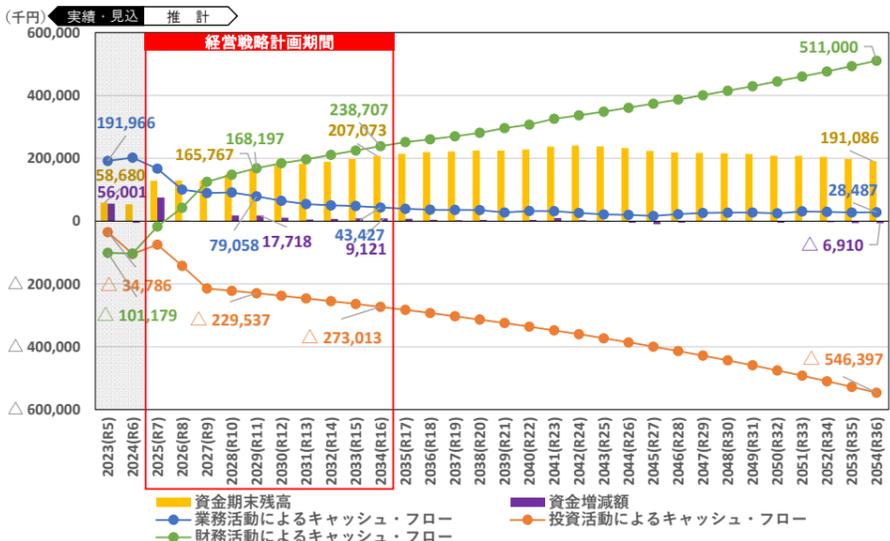
計画期間において継続的に当年度純損失が発生



### (2)資本的収支



### (3)資金収支 (キャッシュ・フロー)

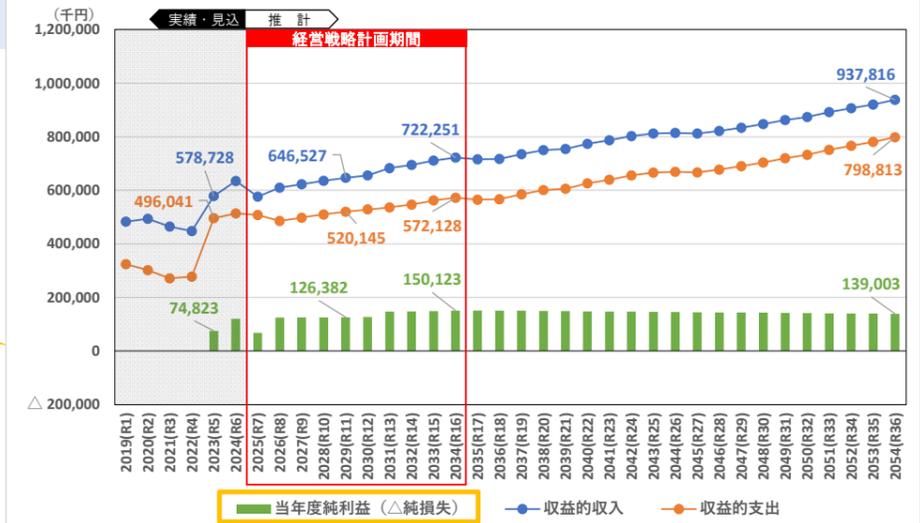


## 4.投資・財政計画（見直しケース）

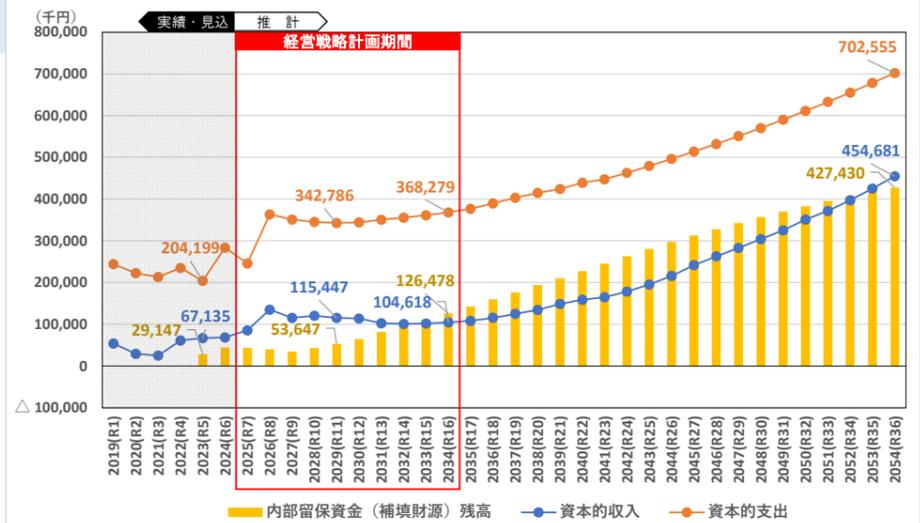
- 令和8年度と令和13年度に使用料改定を実施（収益的収支）
- 収益的支出で一般会計繰出金が生じないよう他会計補助金（資本的収入）を減額

### (1)収益的収支

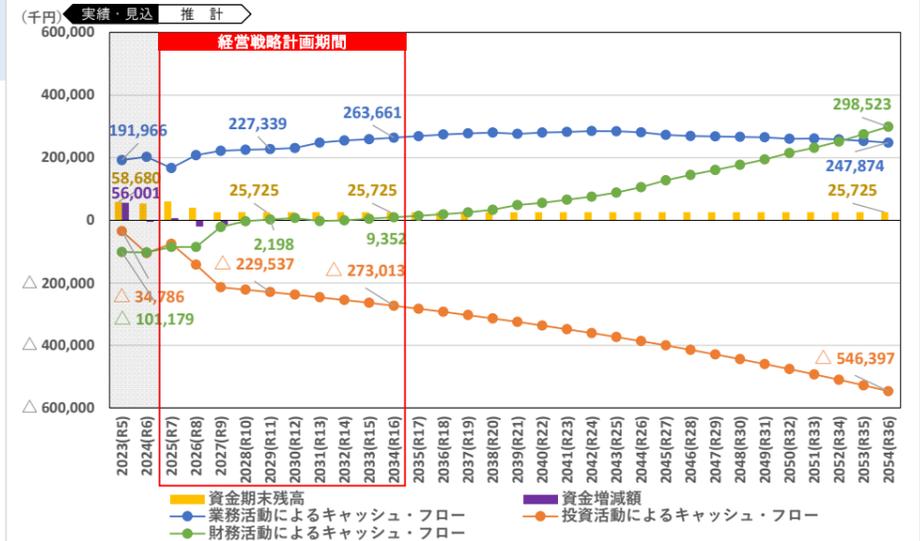
当年度純損失が解消し、当年度純利益に転換



### (2)資本的収支



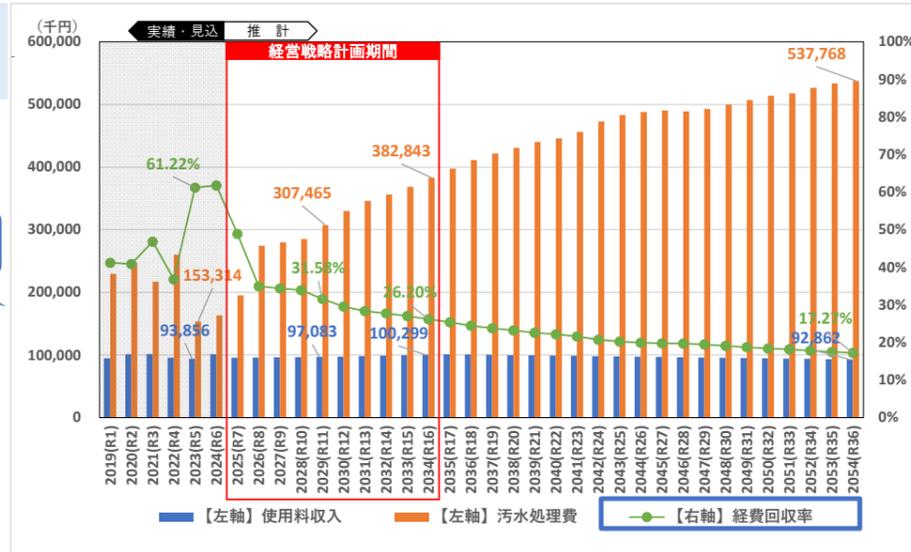
### (3)資金収支 (キャッシュ・フロー)



## 4.投資・財政計画（現状ケース）

### (4)経営指標 （経費回収率）

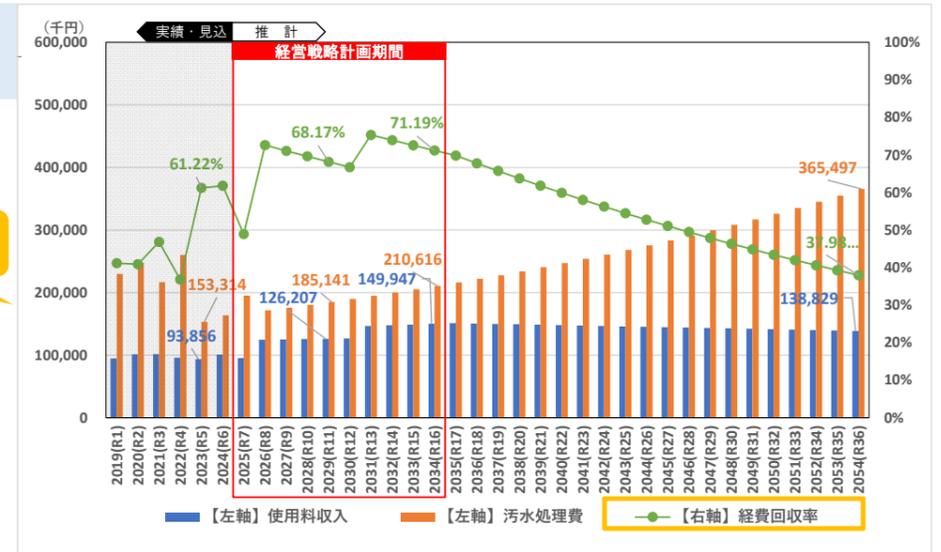
経費回収率が減少



## 4.投資・財政計画（見直しケース）

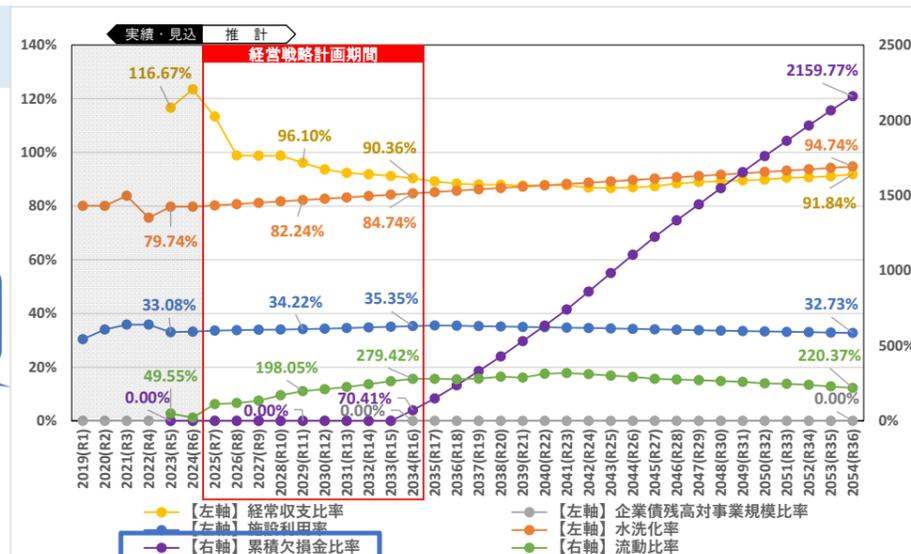
### (4)経営指標 （経費回収率）

経費回収率が上昇



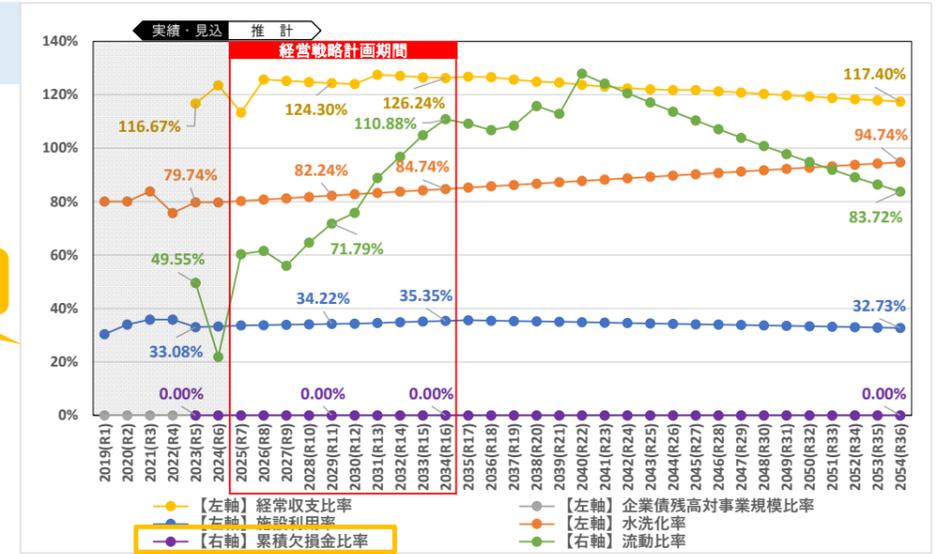
### (5)経営指標 （経営の健全性・効率性）

累積欠損金比率が  
上昇



### (5)経営指標 （経営の健全性・効率性）

累積欠損金比率が0



➡ 収支の均衡と経費回収率の向上が見込まれるため「見直しケース」を採用します

## 5.経費回収率の向上に向けたロードマップ

少なくとも5年に1回の頻度で下水道使用料の改定の必要性に関する検証を行うとともに、検証結果を踏まえ、「経費回収率の向上に向けたロードマップ」を経営戦略に記載することが、社会資本整備総合交付金の交付要件のひとつとなっています。

### (1)経営健全化に関する定量的な業績指標及び目標年限

業績指標	令和5年度 (実績値)	令和11年度 (中間値)	令和16年度 (目標値)
経費回収率	61.22%	65%以上	65%以上
水洗化率	79.74%	82%以上	84%以上

### (2)収入増加・支出削減のための具体的取組及び実施時期

具体的取組	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	R16	
収入増加	使用料改定 (その1)	改定内容 検討、審 議会、条 例改正、 周知	改定 実施								
	使用料改定 (その2)				経営戦略 改定(使 用料改定 の必要性 検証)	改定内容 検討、審 議会、条 例改正、 周知	改定 実施				
	水洗化・区域外流入 の促進	戸別訪問等による下水道未接続者に対する普及啓発活動、施設能力に余裕のある区域において区域外流入の促進									
	滞納対策の強化	徴収業務の委託先(双葉地方水道企業団)と連携した督促の実施									
支出抑制	ストックマネジメン ト計画に基づく計画的な 改築	投資額が平準化された毎年の改築計画を着実に実施									
	建設改良費の財源の 見直し	新たに企業債を発行しない									

## 6.経営の基本理念、基本方針及び具体的な取組施策

**基本理念：次世代へつなぐ、暮らしと水環境を守る下水道**

### 基本方針1：安心・安全なまちづくり

- ①下水道施設の保守・点検等を計画的に行い、適正な施設の維持管理に努めます。
- ②下水道施設の老朽化・不明水対策として、ストックマネジメント計画や修繕計画に基づいて計画的な下水道施設の更新・修繕に取り組みます。
- ③災害時のトイレ確保対策として、マンホールトイレの整備に向けた検討を行います。

### 基本方針2：水環境の保全

- ①使用者が設置する排水設備の確認、事業場等に対する指導監督を的確に実施します。
- ②放流基準に適合した水質を維持するため、適切な施設の運転管理を行います。

### 基本方針3：経営基盤の強化・財政マネジメントの向上

- ①使用料収入の増収を図るため、戸別訪問等による下水道未接続者に対する普及啓発活動を継続して実施し、水洗化率の向上を図ります。
- ②双葉地方水道企業団と連携して滞納者への督促を行い、収納率の向上を図ります。
- ③「少なくとも5年に1度の定期的な経営戦略の改定(使用料改定の必要性検証)→下水道使用料の見直し」というサイクルを確立します。
- ④未利用の下水道用地について、収入増加及び支出低減に向けた方策を検討します。
- ⑤維持管理の共同化について具体的な検討を進めます。
- ⑥ウォーターPPP(※)に関する国や他の地方公共団体の動向を注視していきます。
- ⑦ベテラン職員からの技術継承や専門的な知識・技術を持つ職員の育成に努めます。
- ⑧「広報ならは」等で下水道事業の経営状況や課題を分かりやすく提供します。
- ⑨引き続きマンホールカードを用いた下水道事業のPRに努めます。
- ⑩下水道事業に関する理解を深めてもらうため、町内の小学生を対象とした「下水道出前授業」の実施に向けて関係機関と調整を行います。

※水道、工業用水道、下水道についてのPPP/PFI手法のうち、「施設等運営事業(コンセッション)」と「管理・更新一体マネジメント方式」の総称。地方公共団体と民間企業が協力して、上下水道や工業用水の維持管理・改築修繕計画の策定やその計画に基づく事業運営を行う新しい仕組み。